

KOBELCO

Performance X Design

新型 ミニ

SK30SR SK35SR

ミニショベルがモデルチェンジ 一度触れると忘れられない唯一無二の存在をめざして

コンパクトながら力強いパフォーマンスで、ハイパワーを体感。
オペレータ主体の機能美と快適性が、記憶に残る居心地。
全く新しい価値観を実現したコベルコ建機のミニショベル SK30SR/SK35SR が登場。



製品サイト

バケット掘削力向上

16% UP

(※従来機比)

エンジン出力向上

18.9kW / 2,400min-1

(※従来機比・FAN ナシ)



コベルコ建機株式会社

東京本社 / 〒141-8626 東京都品川区北品川5-5-15 ☎ 03-5789-2111

www.kobelco-kenki.co.jp

コベルコ建機 ニュース

Aug. 2024 Vol. 265 夏季号

〒141-8626 東京都品川区北品川5-5-15 コベルコ建設機械ニュース編集部 ☎ 03-5789-2112

www.kobelco-kenki.co.jp

コベルコ建機株式会社

KOBELCO

夏季号

Aug. 2024 Vol. 265

コベルコ建設 機械ニュース



特集 アフターセールスの存在意義

コベルコ建機
公式SNSは
こちらから



X

Instagram

【 特集：異業種座談会 】

長く付き合っていただけ企業を目指して アフターセールスの存在意義



コベルコ建機株式会社
アフターセールス本部
アフターセールス企画部 部長

森田 克彦

コベルコ建機株式会社
アフターセールス本部
カスタマーソリューション部 部長 兼
コンテンツソリューショングループ
グループ長

吉川 修司

ダイキン工業株式会社
サービス本部
企画部長

山本 仁史さん

ダイキン工業株式会社
サービス本部
事業戦略 担当課長

湯川 奈津実さん

2024年4月、コベルコ建機は「アフターセールス本部」を新設し、お客様から「安心して長くお付き合いいただける企業」を目指して動きを強化している。一方、ダイキン工業株式会社は空調機の国内シェアトップを誇り、顧客サポートの充実ぶりでも高い評価を得ている。今回、両社のサービス部門を担うキーパーソンが一堂に会し、今後の事業拡大に欠かせないアフターセールスの重要性について語り合った。

山田高弘 = 取材・文 鈴木康浩 = 撮影 (P2/P4)
text by Takahiro Yamada / photographs by Yasuhiro Suzuki

アフターセールスによる 事業拡大へ

—— 現在、貴社ではどんなアフターセールスを手がけているのでしょうか。
山本：空調機の場合ですと、お客様からの依頼にもとづいて出動し、故障したものを修理させていただくという受け身のものと、保守であったりオーバーホールであったり、こちらから提

案していくものと、大きくは2つに分かれています。社内では、サービス品質とサービス事業といった切り分け方をしています。
吉川：サービス事業というのは予防保全みたいなものでしょうか。
山本：はい、遠隔監視なども含めた保守サービスです。ビル用空調機の運転状態を24時間365日遠隔監視し、故障予知を実現する「エアネットサービ

スシステム（以下エアネット）」や、エアコン内のフロン漏れを検知する「アシスネットサービス（以下アシスネット）」といったソリューションを提供しています。もともと当社のアフターセールスは、機器を売るためのサービスとしてスタートしています。いかにお客様の満足度を上げていくかに重点を置いていて、利益を上げる事業というより、むしろコストという認識の部

門でした。

森田：どのような状況の変化を受けて、貴社が予防保全のようなサービス事業に注力するようになったのでしょうか。

湯川：エアネットは31年前に発売されました。この業界は夏が非常に忙しいため、サービススタッフの出動を効率化するのに遠隔監視を使おうというのが始まりです。一方で、春や秋は仕事が極端に少なくなってしまうという課題がありました。この課題を解決し、協力店の仕事量を安定的に確保するために、故障予知のための機能を追加。こうしてエアネットは補修や機械のオーバーホールを積極的に提案する



コベルコ建機では、国内で約2500人のサービススタッフが活躍中。「お客様の機械を止めない」を合言葉に、日本全国の現場を駆け巡っている

ための遠隔監視システムとなっていきました。もちろんお客様にとっても、可能な限り止まらない空調であると同時に、修理費用などを抑えることにつながります。

山本：近年は、ライフサイクル全体を通じて収益を上げるビジネスモデルが重要視され、販売時だけでなく、その後のサービスを通じてお客様をサポートしながら事業を拡大していくという考え方が完全に根づいています。

湯川：ライフサイクル全体を通じて収益を上げるビジネスモデルというと、当社には「レトロフィットシステム」があります。レトロフィットシステムは、既設のビル用マルチエアコンのコンプレッサーといった主要部品を最

新のものに入れ替えることで、省エネ性を大幅に向上させることができるメンテナンスサービスです。私自身も開発に携わりました。

エアコンから建機まで 進化する故障予知技術

—— エアコン同様、建機も故障予知に現在力を入れていますね。

森田：今は遠隔監視で、世界中のコベルコ建機の機械がどこでなっているかというのが、基本的には分かるようになっています。

吉川：故障が発生した際にはエラーコードを確認でき、そのときの機械の状態もある程度把握できます。しかし、故障予知を具現化するためには、収集すべき情報がまだ不足しており、この点をさらに強化する必要があります。そのため、現在プロジェクトを立ち上げて取り組んでいるところです。

山本：当社では、法人向けだけでなく家庭用ルームエアコンの予防保全も行いたいと考えています。Wi-Fiに接続していただいているお客様のデータをネット経由で取得する仕組みが整っており、それを活用



夏場の繁忙時には修理依頼が一日に1万件を超えることも。ピークカットを実現するためにも、ダイキン工業では予防保全のさらなる精度向上を目指すという

してルームエアコンの状態を把握できるようになってきました。これにより、不具合があった際にサービススタッフが現地に赴く必要が少なくなるだけでなく、家庭用ルームエアコンの予防保全も可能になると期待しています。

吉川：データが集まって遠隔でも故障の原因が特定できるようになると、予防保全に活用しようと、そういう動きになるのは製品が違ってても同様ですね。

顧客とのつながりを重視し サブスクモデルを選択

—— 先ほどからお話に出ているエアネットやアシスネットというソリューションは、サブスク契約による販売形態を採用しているそうですね。

■ ダイキン工業： エアネットサービスシステム



お客様の空調機器とダイキン工業がクラウドでつながり、運転状態を24時間365日遠隔監視。有事の際の遠隔応急運転からメンテナンス、法定点検の対応まで、多岐にわたる空調管理業務をサポートする



山本：はい、その通りです。それらの商材はサブスクで販売していますので、ハード代はこちらもち。長くお使いいただくことで、だんだん収益が上がっていくというビジネスモデルです。

森田：それでも、あえてサブスクにされたのはなぜですか。メンテナンス契約のように期間を決めてやる契約形態を選ぶこともできたと思うのですが。

山本：初期投資が不要であることなど、お客様にとって導入しやすい環境を提供することで、まずは契約を獲得し、お客様とのつながりを築くためです。どちらかというと、これらのソリューションでは利益を上げるというよりも、お客様とつながることをメインに考えていましたので、価格も抑えています。そのため4、5年しないとペイしないのですが、その間にお客様とつながることによってオーバーホールなどさまざまな提案が可能になります。さらに、更新時にも競合他社との比較のなかで私たちを選んでもらいやすくなります。製品単体で元を取ろうというよりも、とにかく当社とつながるお客様を増やしていこうといったコンセプトでサブスクを採用しました。

森田：私たちも、レンタルやリースとはまた違った初期導入のしやすさから、お客様との接点をもちやすいところで、次のステップではサブスクという仕組みをもう少し考えたいと思っています。

顧客満足度向上の鍵は優れた人材の育成にあり

——アフターセールスにおいて顧客満足度を高めるためには、優れた人材が欠かせません。

山本：当社では、サービススタッフの教育に力を入れており、お客様と接する際のマナーについても重視しています。お客様に不快な思いをさせないよう、細かいことと言えば夏場にはスタッフに消臭スプレーを支給したりもしています。

森田：現在、貴社のサービススタッフはどのくらいいらっしゃるのですか。

湯川：社員が1000人、サービス協力店が1500人ですね。派遣営業を含めると、約3500人体制でサービス業務に当たっています。

吉川：協力店のサービススタッフに対する教育システムなどはありますか。

山本：協力店に新人のサービススタッフが入社すると、約1年間当社に出向という形で預かり、マナーや技術に関する教育を行っています。また、当社のサービス業務のDNAを継承するため、その理念を伝えるビデオ映像を制作し、業務に関わるすべての人に視聴してもらっています。派遣で来ていただいている方にも、当社の仕事のスタンスを理解してもらうことで、サービス業務の質の向上に大いに役立っていると考えています。

吉川：すごく良い試みですね。サービススタッフのモチベーションも上がりますし、自分たちの仕事の重要性も実感できる。当社も見習わなければと思いました。

森田：私たちのサービス業務の目的は、ファンを増やすことです。今回の座談会を通じて、貴社が人材教育を含めたサービス事業を通じて効果的にファンをつくり上げていることを実感し、同じサービス業務に従事する者として大変参考になりました。また、アフターセールスが会社の成長に重要な役割を果たすと確信することもできました。本日は貴重なお時間をいただき、誠にありがとうございました。



CS最前線

大切なのは“現場を止めない”こと。DXで予防保全を可能にし、安定稼働の実現へ

世界に20万台あるコベルコ建機製の機械。その安定稼働を支えるコベルコ建機のアフターセールス業務の“今”について、カスタマーソリューション部の播木健介に語ってもらった。

コベルコ建機のアフターセールス部門が担う最も重要な任務は、お客様の機械が稼働し続けることを保証することです。トラブルで機械が動かなくなると、工事の遅延だけでなく、お客様の収益減少にも直結します。私たちは、お客様が安心して機械を使用できるよう、サポート体制と環境の整備に努め、機械の安定稼働を実現します。これこそが、私が所属するカスタマーソリューション部の主要なミッションとなります。

現在、私たちが最も力を入れているのは、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進によるサービス業務の革新です。この取り組みは、先進国における人口動態の変化、特に少子高齢化に対応するためのもの。世界中でサービススタッフの後継者不足が問題となっており、デジタル技術を活用したサービスツールやシステムの開発・提供は、喫緊の課題です。こうしたDXの推進は、修理作業を誰でも容易に行えるようにし、同時にスタッフ

のトレーニング期間を短縮することにもつながります。

具体例としては、スマートフォン上で油圧ショベルのエンジンと油圧に関する技術情報を閲覧できるアプリ「K-AID」があります。機械はラインナップごとに採用されているエンジンメーカーが異なりますが、技術情報をこのアプリ一つに集約。スマートフォンがあれば、サービススタッフが簡単にエンジンの故障診断をできるようになっています。

また、機械の安定稼働を支える見守り機能として2016年に開発された「Kスキャン」。このシステムは、機械の状態を監視し問題が発生する前に対応することで、機械トラブルを未然に防ぐことを目的としています。現在、この機能強化を目指すプロジェクトが進行中です。従来は、機械の水温、油温、エンジン情報など、ある一定期間のデータしか把握できませんでした。新バージョンでは、これらのデータの取得箇所や計測時間などを大幅に増や

し、お客様の機械を常に見守る仕組みを検討しています。それは、不具合などでの休車時間の最長化や最適なメンテナンス方法の提案、故障原因の追求による開発機への改善フィードバックなどを行うことで、安心・安全な機械を提供していきます。

カスタマーソリューション部は、かつてカスタマーサポート部としてフィールドで稼働している機械に対して修理業務の支援をする役割を担っていました。2024年の4月に部署名をカスタマーソリューション部に変更し、お客様の課題に対するソリューション提供へと進化を遂げています。DXの推進は、この変革に不可欠な取り組みであり、今後も継続していく重要な戦略であると考えています。



アフターセールス本部
カスタマーソリューション部
グローバルフィールドサポートグループ
グループ長

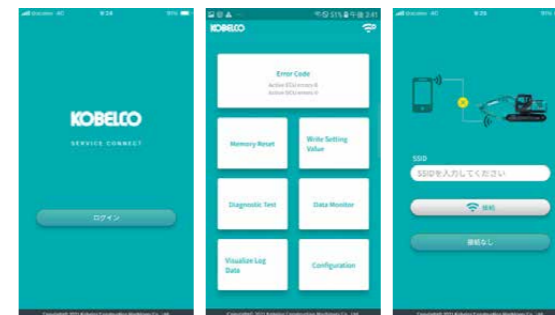
播木健介

2006年コベルコ建機に入社。カスタマーサポート部に配属後、グループ内の国内販売会社に出向し、現場でのサービス業務を学ぶ。その後、マレーシアやインドの現地法人におけるアフターセールス部門の責任者を務め2023年に帰国。現職を含め、一貫してサービス部門を歩んできたスペシャリスト。



K-AID

エンジンに特化した技術情報を確認できるスマートフォン用アプリ。コベルコ建機の油圧ショベルに搭載される各種メーカーのエンジンに対応している



アプリ起動時にIDとパスワードを入力してログイン。必要なメニューを選択して利用する

【 パーツ最前線 】

変わるコベルコ建機の部品事業。サービス部門との連携で新たなビジネスモデルの開発へ

近年、建設機械の本体だけにとどまらず、部品販売などのストックビジネスの強化へと舵を切ったコベルコ建機。部品サプライマネジメント部の大月耕平に、この戦略の背景と詳細について語ってもらった。

部品事業では、お客様が必要とする部品を適切なタイミング、そして適正価格で提供することが最も重要な使命です。この使命を遂行するために、コベルコ建機は高密度自動倉庫「AutoStore（オートストア）」を装備した東条パーツロジセンターをはじめ、全国に3つの物流拠点を設置しています。

これらの拠点を通じて、迅速かつ効率的な部品供給体制を確立。国内外を問わず、月間約25万個もの部品をスピーディーに出荷する能力を備え、お客様のビジネスを強力にサポートしています。

ただ、最近ではネット通販の影響もあり、お客様の物流に対する要求が高くなってきています。ネット通販では、翌日配達や注文時の配達時間指定のほか、注文後も発送時間や到着予定時間を知らせるメール連絡などのサービスも提供されています。

今後、コベルコ建機の部品事業でも、同様のサービスを提供しなければ、お客様が不便を感じるケースが多くなる

可能性があります。B to Cの世界では、ワンクリックで注文が完了し、商品が届く専用アプリなども広く浸透しており、当社としてもITを活用したこのようなサービスを今後開発していく必要があると考えています。

また、価格競争力の高い海外メーカーとの違いを打ち出していくことも重要です。私たちは製品単体だけではなく、製品のライフサイクル全体を考えて、お客様にとってより良いメリットを提供したいと思っています。

そこで重要になるのは、機械自体が高性能であることとともに、充実したサービスと迅速な部品供給による差別化です。お客様にとっては建設機械をより長く、より安定して稼働させることが最大のメリットになるので、私たちはこの分野での強化を図り、グローバル市場での優位性を確立することが重要だと考えています。

2024年4月に発足したアフターセールス本部は、こうしたコベルコ建機の新たな事業戦略の象徴です。従来、部品部門とサービス部門は別々に運営さ

れていましたが、両部門の統合により、新たな可能性が開かれました。これまで部品在庫の計画は、出荷実績や新車の仕込み時期にもとづいて行われていました。しかしサービス部門と連携することにより、従来に比べてより効率的な整備提案やコスト削減が可能になります。

例えば20tクラスの機械が数千時間稼働したあとのメンテナンス需要を見越して、適切な部品在庫を準備し、アフターサービス用の部品を企画し価格交渉を行うなど戦略的な計画が立てられます。これはお客様にとっても必ずメリットがあるはずで、これらの取り組みはまだ始まったばかりですが、今後さらに拡大し、新たなビジネスモデルの開発につなげていくつもりです。



アフターセールス本部
部品サプライマネジメント部
部品ロジスティクスグループ
グループ長

大月耕平

2004年コベルコ建機に入社。グループ内の国内販売会社の横浜工場サービススタッフとして勤務した後、大久保の部品センターで在庫計画などを経験する。その後、タイの現地法人立ち上げや、東南アジアの部品事業に取り組み、2022年に日本に帰国。入社以来一貫して部品関連の仕事に従事している。

■ 東条パーツロジセンター



センター内には高密度自動倉庫「AutoStore（オートストア）」が装備されている。1. 収納ボックスは十字に仕切られ4つのパーツを収納できる 2. ロボットカーが収納ボックスの上を走り回って集荷 3. 32台のロボットカーが専用のアルゴリズムにより同時に動く

HOT NEWS

ユーザの現場を熟知するレンタル会社3社が統合 コベルコ建機トータルサポート、始動

コベルコ建機グループの建設機械レンタル会社である、トーヨーエスエス株式会社、株式会社ササイナカムラ、株式会社ワイズヨシハラの3社は、2024年4月1日に経営統合し、新たに「コベルコ建機トータルサポート株式会社」として事業を開始した。そこで、同社を率いる中川浩二代表取締役社長取材し、3社統合の背景や狙い、今後のユーザーメリットなどについて聞いた。

規模の拡大と効率化で、インフレを乗り越える

新会社設立の背景にあるのは、レンタル事業における市場環境の変化だ。代表取締役社長に就任した中川浩二は、日本社会では現在いろいろな分野でインフレが進行しており、それはレンタル業界でも同様だといひ、次のように続ける。

「重機などの資材の購入価格はどんどん上がってきています。そのため、今後は規模を拡大して購買調達力を強化し、仕入れコストを圧縮することが重要。3社の経営統合により、それを実現します」

さらに、レンタル資産を共同保有してより柔軟かつ効率的に運用することも、経営統合で得られる利点となる。スケールメリットを最大限に生かした資材購入と、その資産に流動性をもたせて稼働率を上げていくこと。そうすることで、お客様にも満足いただける契約内容を、厳しい時代のなかでも実現できると中川社長は考えている。

「お客様へのサポートのさらなる充実はもちろん、レンタル業界で急激に進行しているDXへの対応、3社の経営統合に伴う内部統制機能の強化なども、専門スタッフの拡充を図ることで可能にしていきます」

お客様のニーズに応えるべく、新たな挑戦へ

今後、同社が注力すべき方向性については、「第一に、お客様にとって魅力ある新たな取り扱い商材を増やすこと」だという。

お客様と接する機会が多く、現場のニーズをよく知っているからこそ分かる商材選びをより研ぎ澄ませていきたい、ということだ。

「例えば、コベルコ建機では今、重機の遠隔操作を

可能にするK-DIVE®がありますし、そのあとには自動運転といったソリューションも控えている。またショベルにおけるバケット内の土砂荷重を計量し、過剰・過少積載を未然に防ぐK-LOADなど、ほかにもさまざまな商材があります。それら先進のソリューションをお客様にいち早く使っていただけるようなビジネスモデルを構築すること。当社はそういった機能を果たさなければならないと思っています」

新たなスタートを切ったコベルコ建機トータルサポート。プロモーション全般を担う部署、販促CS部も新設され、顧客満足度の向上とブランド認知度の強化へ向けても、すでに動き始めている。

「当社は、お客様との信頼関係をさらに深め、持続可能な成長を目指して日々進化を続けていきます。これからのコベルコ建機トータルサポートに、ぜひご期待ください！」



代表取締役社長 中川浩二

1992年、神戸製鋼所に入社。グループ会社の業績管理などを行う本社部門の経営企画部などを経て、2013年4月にコベルコ建機に転籍。海外部に配属され、欧米における拠点立ち上げの支援を担当する。2015年4月よりインドに赴任し、現地法人の副社長、社長を歴任。2022年4月に帰国して企画管理部長を務めた後、2024年4月にコベルコ建機トータルサポートの代表取締役社長に就任。インド赴任時、別会社だったクレーン事業とショベル事業の統合を実現した経験を生かし、今回の3社による経営統合でもその手腕を発揮している。

コベルコ建機
トータルサポート株式会社
● 本社所在地：兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通一丁目5番1号 国際健康開発センター 6階
● 統合年月日：2024年4月1日
● 資本金：350百万円
● 株主構成：コベルコ建機株式会社100%
● 従業員数：505名（2024年4月1日現在）
● 主な事業内容：建設機械、仮設資材のリース・レンタル、建設機械の販売・整備、仮設/切削工事、産業機械の販売

旧諸戸家住宅(六華苑) [三重県] “近代建築の父” が手がけた 山林王の邸宅

伊勢湾に注ぐ木曾三川(木曾川、長良川、揖斐川)の河口に広がる町・桑名。古くから河川海上交通の要衝で、後に東海道42番目の宿場町としても栄えた。市街地を流れる揖斐川沿いには、かつて東海道の一部を海路で結んだ「七里の渡し」の渡船場跡があり、その近くには鮮やかな空色に彩られた洋館の塔屋の屋根が木々の間から顔をのぞかせている。建物は、桑名で「山林王」と呼ばれた実業家が、近代の日本建築に多大な影響を与えた英国人建築家に依頼して建てた「旧諸戸家住宅(六華苑)」である。

砂山幹博 = 取材・文 田中勝明 = 撮影
text by Mikihiro Sunayama / photographs by Katsuaki Tanaka

二代で財を成した 諸戸家の躍進

明治・大正時代の日本では、服装や生活スタイルの西洋化が一般市民に急速に浸透していった。なかでも西洋風の館を備えた邸宅を建てることは、当時の政府高官や成功を取めた実業家たちにとって新しい時代のステイタスだった。1911(明治44)年に着工し、13(大正2)年に竣工した実業家・二代諸戸清六の新居、現在「旧諸戸家住宅(六華苑)」と呼ばれる邸宅もまた、そうした背景から生まれた。

諸戸家は加路戸新田(現在の三重県桑名郡木曾岬町)で代々庄屋を務めていた家だった。ところが、江戸時代末期の清九郎の代に塩の売買に失敗し、多額の負債を抱えた。そのため、夜逃げ同然に一家で桑名へ移住してきたという。清九郎の長男清六は父の死後、

18歳で家を継ぐと、手元のお金で米穀業を営み、わずか3年で負債を完済。明治維新のあとに新政府の要人との人脈を頼りに事業を拡大し、田畑の開墾や山林の植林を行い、一代にして莫大な財産を築き上げた。

清六には四男六女の子どもがいたが、長男と三男は早逝しており、06(明治39)年に清六が死去すると、諸戸家は2つに分かれた。次男が家屋敷を継承(西諸戸家)し、当時18歳で旧制早稲田中学に通っていた四男が桑名に呼び戻されて二代目諸戸清六を襲名し、家業を引き継いだ(東諸戸家)。林業を営み、後に「山林王」として財を成す二代清六は結婚を機に、初代が暮らした屋敷の隣地に前述した新居を完成させた。

4層まである円形の塔屋と、鮮やかな空色の外壁が印象的な木造洋館の設計を手がけたのは「日本近代建築の父」

とも呼ばれ、明治・大正時代の日本建築に多大な影響を与えた英国人建築家ジョサイア・コンドルである。

青年実業家はいかにして 設計を依頼できたのか

当時の日本は、近代的な西洋技術の導入を積極的に進めており、さまざまな分野で外国人の技術者を雇い入れていた。コンドルも日本政府の招きに応じて、1877(明治10)年に25歳で来日。5年間の雇用契約だったが、当初の予定を大幅に上回り、13年もの間政府の仕事に携わった。その後も日本に残り、活動の場を民間に移して、精力的に建築と向き合うことになる。西洋式社交場として開設され、欧化政策の象徴とも称された「鹿鳴館」(現存

せず)やレンガ造りの教会「ニコライ堂(東京復活大聖堂)」(東京都千代田区)、「島津忠重邸」(現在の清泉女子大学本館、東京都品川区)、「古河虎之助邸」(現在の旧古河庭園本館と西洋庭園、東京都北区)などを設計したほか、工部大学校造家学科(東京大学工学部建築学科の前身)の教授として後進の指導にあたり、多くの日本人建築家を育てた。教え子には、東京駅の設計で知られる辰野金吾らがあり、彼ら門下生が後の日本建築界をリードしていくことになる。

コンドルが設計した建築物は70近くあるが、多くが東京とコンドルの事務所があった神奈川県に集中しており、それ以外の場所で現存する唯一の建築物が桑名の旧諸戸家住宅である。政府高官や大財閥の邸宅を設計してき

木造2階建ての洋館と和館が連なる「旧諸戸家住宅(六華苑)」。多角的に張り出した洋館のサンルームは、コンドルのこだわりがもともと現れた部分だといわれる



1.洋館と壁一枚でつながる和館。まっすぐに伸びた廊下は、主人や来客のための「畳廊下」と、使用人が通る「板廊下」に分かれている。洋館側には、創建時から水洗トイレが設けられていた。桑名の飲料水不良を解消するため私財を投じて自力で上水道を完成させ、市民に無料で開放した初代清六の功績が見て取れる 2.洋館と和館の壁が接続している様子がよく分かる 3.洋風の部屋の中に和風のふすまが設けられるなど建物内の各所に和洋折衷が見られる(洋館2階居間)



1.邸宅の南側には、国の名勝に指定されている池泉回遊式の日本庭園が広がる 2.洋館同様、きらびやかな装飾がほとんど見られない和館の「一の間」。来客用の座敷として使用された



た著名な建築家に、地方都市の、しかも代替わりしたばかりの23歳の青年が設計を依頼できたのはなぜか。

「依頼の経緯は定かではありませんが、諸戸家は初代の頃から後に内閣総理大臣になる大隈重信や三菱の創業者一族の岩崎家との交友がありましたので、いずれかの紹介があったと考えられています」と、六華苑の石神教親苑長は話す。

コンドルは政府の仕事から退いたあと、三菱財閥の顧問を務め、岩崎久彌の本邸(現在の旧岩崎邸庭園洋館、東京都台東区)などを設計している。また、

グループの三菱地所には旧諸戸家住宅の設計図面が保管されており、このことから岩崎家が仲介に関わったと推測できる。

施主の想いに応えた近代建築の父

旧諸戸家住宅は、揖斐川と長良川を望む約1万8000㎡もの敷地にコンドルが手がけた洋館のほか、和館や長屋門、土蔵などの建造物群と、池泉回遊式の日本庭園が設けられ、まさに山林王の名にふさわしい偉容を誇る。

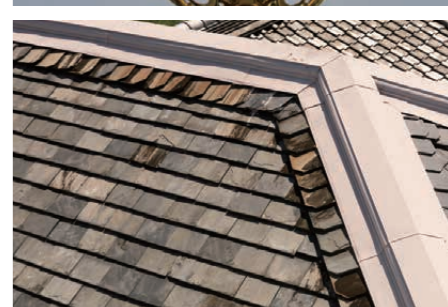
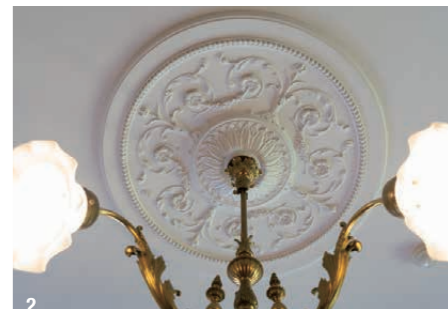
洋館のシンボルである塔屋は、設計

図面では3層とあるが、実際には4層で完成している。揖斐川堤防には初代清六が植えた桜並木があり(1959年の伊勢湾台風で消失)、塔屋から見渡せたが、桜があまりに大きく成長していたため、揖斐川の流れの眺望を遮っていた。そのため、急遽4層に設計変更したといわれる。コンドルの設計で4層の塔屋をもつのはこの旧諸戸家住宅だけである。二代清六は、4層からの眺めを大変気に入っていたようで、しばしば客人を招いていたという。

明治時代の邸宅で、洋館と和風建築物が並び建つことはそう珍しくはない



1.鮮やかな空色が目を引く洋館のなかでも、北東の隅にある4層の塔屋は洋館のシンボルともいえる存在 2.洋館客間の天井、シャンデリアの付け根にはコンドルが好んで用いたというバラのレリーフがあらわれている 3.和館の屋根には瓦、洋館には天然スレートが葺かれた



庭園に張り出すように1階にはベランダ(写真上)、2階には同じ広さをもつガラス張りのサンルーム(写真左)が設けられた。当時としては斬新な設計であったようだ

歴史的建造物誕生の秘密を探る!
File.68

が、敷地内に別棟で建てられるか、あるいは洋館の一部に和室をしつらえるのが一般的だ。ところが旧諸戸家住宅では、洋館と和館が壁一枚でつながっており、中で行き来ができるようになっている。この時代では他に類を見ない作りである。洋館と和館は同時に建設が進められ、和館を手がけたのはコンドルではなく、諸戸家専属棟梁の伊藤末次郎が腕を振るった。

二代清六の邸宅には洋館・和館ともに過度な装飾がなく、施主の好みが随所に反映されている。コンドルはこの若い施主の意向を汲んだようで、簡素

ですっきりしたヴィクトリア朝様式を基本としたづくりには、コンドルの他の作品には見られない明快さがあるという。

旧諸戸家住宅は、その後の改築・改修や太平洋戦争による被災があったものの、創建時の姿をほぼそのままにとどめている。敷地および建造物群の所有は東諸戸家から桑名市へと移り、93(平成5)年に一般公開を開始。このとき、清六の「六」と、桑名の呼び名の一つであった「九華(くはな)」から、六華苑の名がついた。建造物のうち、明治・大正初期を代表する洋館と和館は

97(平成9)年に国の重要文化財に指定され、2001(平成13)年には一部を除く庭園が「旧諸戸氏庭園」として国の名勝に指定されている。映画やドラマのロケ地としても活用されることが多く、塔屋やベランダがある特徴的な意匠や、池越しの洋館の姿を画面やスクリーンで一度は目にしたことがあるのではないだろうか。桑名きっての観光名所となった旧諸戸家住宅(六華苑)には、年間5万人の来苑者があり、往時の雰囲気を残す和洋の建造物と、風情のある景観を楽しむ人たちにでぎわっている。



経営のヒント

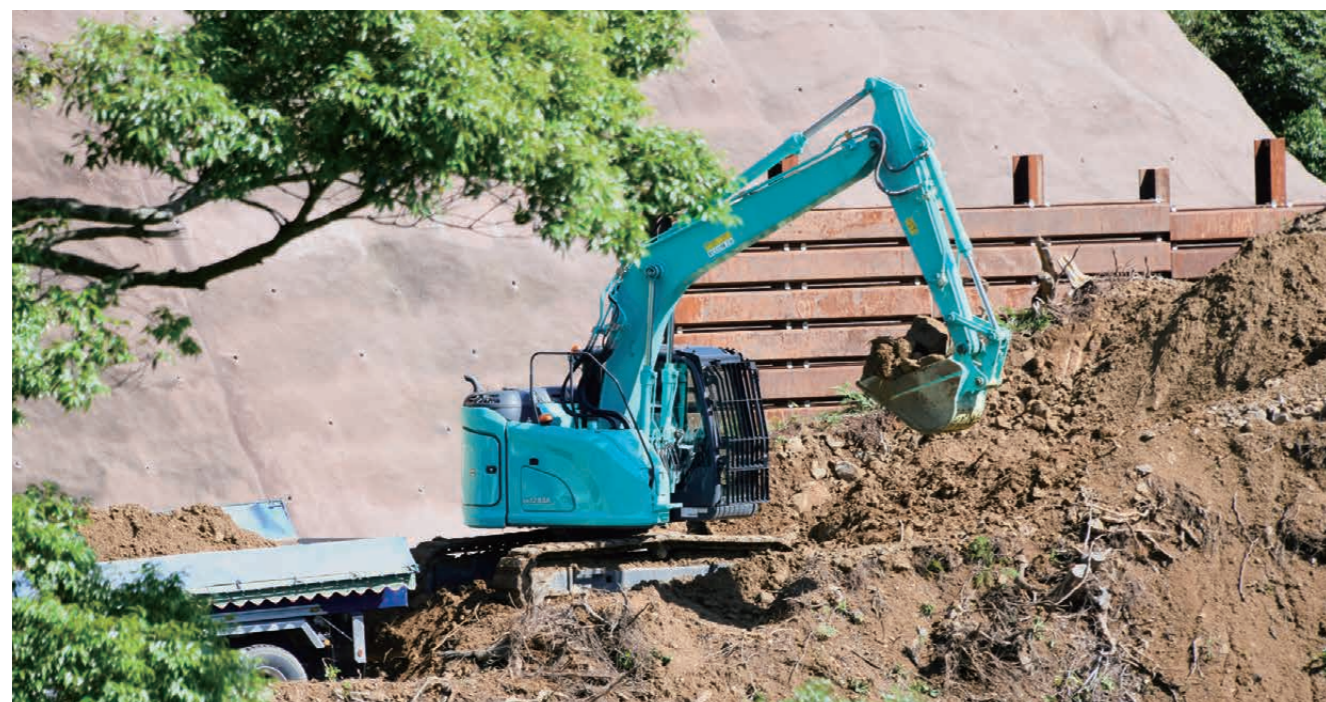
安全対策編

鹿児島県鹿児島市
永田重機土木株式会社

けがをさせない現場へ 安全こそ最高の営業ツール

鹿児島市を拠点に、土木工事や建物解体、産業廃棄物処理といった幅広い事業を展開する永田重機土木株式会社。安全性の向上と効率的な作業を追求する同社では、2024年に周囲検知衝突軽減システム「K-EYE PRO 2.0」を搭載したショベルを新たに導入。現場での事故を未然に防ぐことはもちろん、高い安全意識は同社への信頼につながっている。

山田高弘 = 取材・文 三浦泰章 = 撮影
text by Takahiro Yamada / photographs by Yasuaki Miura



橋台設置のためのスペースをつくる、狭小現場での掘削作業。土量も多く、仮設防護柵がある現場は死角も多いため、K-EYE PRO 2.0の人検知機能がより安全な作業環境を生み出す

現場スタッフの安全確保へ K-EYE PRO 2.0を導入

永田重機土木株式会社は、現代表取締役である永田雄一さんの父である先代が1967年に創業した土木、解体をメインとした総合建設業の会社だ。二代目となる永田さんは現在56歳。学生の頃から家業を手伝い、高校卒業後は3年間、県内の土木業者で修業を積んだ。永田重機土木に入社後も、重機オペレータなど長く現場で仕事をしてきた永田さん。そうした経験のなかで学んだのは、建設土木業界における安全の大切さだったという。「この業界で長く働いていると事故の

事例はよく聞きます。安心して働ける現場環境は、なにものにも代えがたいもの。土木や建設の業界で人材不足が叫ばれる昨今にあっては、早急に手を打たなければならない重要な課題の一つです」(永田さん)

会社としては従業員が参加して行う安全大会の実施はもちろんのこと、永田さん自身が建設業の協会で労務委員長を務めるなど、業界全体としての安全意識を常に高く保つ努力を続けている。

こうした努力を続ける一方で、人の安全に対する意識を高めるだけでは限界があると感じていた永田さん。例えば、最近のショベルはカメラの映像で周囲の確認ができるようになったが、

どんなに人が安全に配慮したとしても目視に加えて、映像すべてに目配りするのは常に高い集中度を保ち続けなければならないと話す。

「そこで目をつけたのが、コベルコ建機の周囲検知衝突軽減システムK-EYE PRO 2.0です。昨年、デモ機があると聞いてすぐに千葉県まで試乗に出掛け、これだと確信しましたね」

人は少なからずミスを犯すもの。ヒューマンエラーを完全に無くすのは難しいが、人を検知して自動停止するK-EYE PRO 2.0なら重大事故の抑制に



“安心して働ける現場環境は
なにものにも代えがたい。
安全に投資は惜しみません”

代表取締役
永田雄一さん



◎今回の訪問先は
永田重機土木株式会社
所在地/鹿児島県鹿児島市川上町2216番地1
☎099-244-3388

役立つはずと、永田さんはその安全補助機能を搭載したSK125SR-7を、全国でもいち早く導入し、現場での使用を開始している。

先進の安全システムは 営業面にも貢献する

取材当日、K-EYE PRO 2.0を搭載したSK125SR-7は、鹿児島県南九州市と鹿児島市を結ぶ有料道路の現場で稼働していた。土砂を掘削し、橋台設置の基盤整備を行うのが永田重機土木に課せられたミッションだ。

本工事にK-EYE PRO 2.0を搭載したショベルが使われると聞き、「やはり、永田重機土木は安全を重視する会社だな」という思いを改めて認識したと語るのは、本工事を元請け会社として受注した南生建設株式会社の堂園靖英さん。現場責任者として工事を取り仕切る堂園さんもまた、安全に対する意識が高い。斜面と防護柵に囲まれており、重機オペレータからの死角も多いこの掘削現場において、K-EYE PRO 2.0は接触事故の抑制に十分なメリットがあると、工事が進むうちに実感していったという。



現場責任者である南生建設の堂園靖英さん。「現場管理をする上で常に思っているのが、事故がなく、働く全員に笑顔で家に帰ってもらいたい、という気持ちです」

「現場で事故を起こさないためには、作業者全員が高い安全意識をもって作業することが必要不可欠です。人がやる作業を機械側でフォローしてくれるこのシステムは、安全性と作業効率を両立し、安心・安全な現場づくりに貢献してくれると考えています」(堂園さん)

永田重機土木のオペレータ、北原雄二さんも、先進の安全システムを備えた本ショベルでの作業は気持ちに余裕が生まれると、K-EYE PRO 2.0搭載機の導入を歓迎する。「土木工事の現場では、ショベルでの作業中に車体の死角となるスペースが不安で、何度も確認することがあります。その点、K-EYE PRO 2.0搭載機なら人を検知するとしっかり停止してくれますので、とても安心。機械が安全面をフォローしてくれるので、さらに作業に集中できるというメリットもありますね」(北原さん)



K-EYE PRO 2.0搭載機のオペレータを務める永田重機土木の北原雄二さん。「重機に乗り始めてまだ2年と経験が浅い私にとって、K-EYE PRO 2.0はとても心強い存在。また、歩行者など人の往来が多い街中の現場でも、事故の抑制に役立つはずだ」

永田重機土木では、価格競争に陥らないよう新しい技術を取り入れるのに前向きだ。なかでも、K-EYE PRO 2.0のような事故の抑制に役立つ先進の安全システムは発注者にとっても魅力的で、営業面での効果も高いという。スタッフの安全確保に寄与するK-EYE PRO 2.0搭載機の導入は、今後の永田重機土木における事業拡大にも必ず貢献していくはずだ。



1.スペースが限られた本現場では、つい近道行動などをしてしまう危険性もあるため、K-EYE PRO 2.0の有効性は高い 2.検知エリア内で人の姿を検知すると、写真の警報機から注意喚起を行い、旋回または走行動作を停止する



経営のヒント

機械力編

熊本県熊本市
株式会社九建総合開発

充実の機械設備を 質の高い仕事につなげる

九州・熊本を中心に西日本一円で、杭打ち工事の豊富な実績を有する株式会社九建総合開発。同社では、優れた機械力がもたらすメリットを最大限に活用し、高品質な仕事を実現。2024年度も150tクラスのクローラークレーンを導入するなど、さらなる成長へ向けた取り組みが進行中だ。

山田高弘 = 取材・文 三浦泰章 = 撮影
text by Takahiro Yamada / photographs by Yasuaki Miura

機械の自社所有にこだわり、 柔軟な対応を実現

株式会社九建総合開発の創業は1980年。以来、熊本県を中心に九州全域はもとより西日本各地で杭打ち工事の実績を積み重ね、その数は優に2000件を超える。代表取締役の新永隆一さんによると、長年に渡り培ってきた豊富な現場経験から、同社では九州全域の膨大かつ詳細な地質データを保有しているという。

「特に熊本県内は、阿蘇山が噴火したことで地中に大量の溶岩が埋まっているなど地下の状態が複雑で、場所によっては地質がまったく違う場所も多いのですが、当社では障害物のおおよその分布まで把握しています。そのため、現場の地質にあった最適な工法を提案することが可能です」(新永さん)

また、基礎工事における杭打ちには、コンクリートや鋼管製の「既製杭施工」、現場で掘削した穴の中にコンクリートを流し込んでその場で杭を造成する「場所打ち杭施工」があるが、両方に対応できる業者は全国的にも珍しい。それを可能にしているのが、九建



総合開発が誇る多彩な機械設備のラインナップだ。

「当社では、いずれの施工にも対応できるように必要な機械を自社で所有することにこだわっています。というのも、杭打ちは目に見えない地下での工事のためトラブルはつきもの。例えば既製杭の設計で工事に入っても、地盤が固かったり転石があったり、杭が入らない場合も少なからずあります。そんな想定外の場合も、自社で機械を所有しているので、迅速に場所打ち杭施工に切り替えることが可能です」

九建総合開発が、発注元の大手ゼネコン各社から絶大な信頼を得ている理由、それは基礎工事のあらゆるニーズに対応できる機械を揃え、それらを使いこなす技術力やこれまでに培ってきた知識や経験を組み合わせることで、自社所有の機械の強みを最大限生かしていることにあるだろう。

九建総合開発のヤードにて、その雄姿を見せるBM1500G。基礎工事に用いるクローラークレーンとして、その性能は業界でも評価が高い。初仕事は、大型工場の建設現場となる予定だ



“クレーンだけでも
10台以上を所有。
充実の機械力こそ
当社の強みです”

代表取締役
新永隆一さん



● 今回の訪問先は
株式会社九建総合開発
所在地／熊本県熊本市北区植木町岩野1375
☎ 096-272-4555 <https://kyuken.jp/>

大型基礎用クレーンの機械力を 多方面でフル活用

2024年6月、九建総合開発が誇る機械力がさらにパワーアップした。それが、150tクラスのコベルコ建機製大型基礎用クローラークレーン、BM1500Gの導入だ。

最近の建設需要の動向から、九建総合開発では今後基礎工事の大型案件が増えてくると予想。今までの所有機で一番大きいクローラークレーンは120tクラスだったが、昨今の杭の大径化・長尺化に伴い、さらに大きいBM1500Gを導入した。同機は、主に大口径の場所打ち杭施工において、全周回転掘削



現場の管理や人員配置を担う取締役の井博幸さん。「やはり安全が最も大切ですから。小さい機械で無理な作業をさせないというのが当社のモットーです」

機の相番機として活躍する予定。

異業種から安全に対する考え方を学ぶため、航空会社からパイロット講師を招いて安全講習をするなど、安全面にも注力している九建総合開発。BM1500Gの導入で、性能面以外にも効果があると語るのは取締役の井博幸さんだ。

「大きいクラスの機械は安全性が高く、余裕をもって作業ができるので経験の少ない若いオペレーターが乗っても安心です。そのため、当社では若いうちからどんどん大型の機械に乗ってもらうようにしています。操作技術は実際に乗らないと上達しませんから」と、井さんは安全面、人材育成面での大型クレーンのメリットを語る。

同社では、若手の人材育成に力を入れており、26歳の期待の若手オペレーターである牧野大珠さんに話を聞いた。「2年ほど前からオペレーターとしてクレーンに乗り始めましたが、すぐに80tや100tといった大きなクローラークレーンを経験させてもらい最初は戸惑いましたね。最近ではすっかり慣れて、かえって大きいクレーンの



80tや100tのBM機のおペレータを経験してきた牧野大珠さん。オペレータ歴2年余りで幅広いクラスのクレーンを経験できるのは、九建総合開発ならではの人材育成術といえるだろう

ほうが安定した作業ができると感じます。BM1500Gの操作感についても、ほかのコベルコ建機のクレーン同様にブレーキは思った通りに利きますし、ブームのねじれもなく、大きいからといって操作は苦になりません」(牧野さん)

実はBM1500Gの導入には、基礎工事の大型案件での使用のほかにもう一つの目的があった。それは、新永社長が考案した災害に強い埋設型地下倉庫「SPEUS」の建設という新たな事業に必要なためでもある。基礎工事から人材育成、新規事業まで、多様な活躍が期待されるBM1500G。そのパワフルな機械力が、九建総合開発の発展をさらに加速させようとしている。



九州全域の地質データの保有と多彩な機械設備のラインナップはさまざまな現場で生かされる。1.熊本・阿蘇における成川橋の工事現場 2.宮崎・国富町での宮丸橋の工事現場



九建総合開発を中核とする九建グループでは、熊本の地域住民から集めた使用済み食用油で高純度バイオディーゼル燃料を製造。グループ各社でクレーンなどの重機に活用している。写真は、グループ会社が開発した移動式急速EV充電機。環境に優しいバイオディーゼル燃料を使って発電する



【コベルコの風】

日本全国、そして世界各国でのコベルコの活動をレポート!



Wind 1 from
千葉
Chiba

第6回 建設・測量生産性向上展 (CSPI-EXPO2024) に出展しました

2024年5月22～24日、「第6回 建設・測量生産性向上展 (CSPI-EXPO 2024)」が千葉県の幕張メッセで開催され、コベルコ建機が参加しました。

建設・測量業界の最先端の機械や設備、技術、サービスが一堂に会した国内最大級の展示会で、コベルコ建機は「誰でも働ける現場へ KOBELCO DX / GXソリューション」というコンセプトのもと、最新機種や独自のDX /



注目度が高かった水素燃料電池ショベルの稼働実演

GXソリューションを紹介しました。今回はGXソリューションの展示として、クリーンエネルギーを活用した製品をPR。本展示会が初の公開となった水素燃料電池ショベル(参考出展)が屋外ブースに登場し、実機の稼働デモンストレーションでは人垣が何重にもできるほどでした。また、SK17SRe電動ショベル(参考出展)や有線電動式クローラクレーン(パネル展示)など、コベルコ建機のカーボンニュートラルに向けた取り組みを発信しました。

開催3日間を通じてコベルコ建機ブースには多くの方に訪れていただき、コベルコ建機の取り組みを知っていただく良い機会となりました。

Wind 4 from
熊本
Kumamoto

熊本教習センターがリニューアル

2024年4月1日、コベルコ教習所株式会社は、熊本教習センター(熊本県菊池郡大津町)の教室棟と実習棟を一新し、実技場の一部を改修してリニューアルオープンしました。

新しい教室は収容人数が増え、より多くの方に快適に受講していただけます。また、カフェエリアも綺麗に生まれ変わり、授業の合間にほっと一息つける空間になっています。大手半導体企業の工場設立などにより活気づく熊本の地域活性化に貢献できるよう、現場で働く皆様の安全のために、これからも責任をもって講習を実施してまいります。



熊本教習センターの新しくなったエントランス

Wind 5 from
広島
Hiroshima

広島大学でネーミングライツ施設開設記念式典を実施

コベルコ建機は2023年に広島大学と契約を結び、広島大学東広島キャンパス工学部管理棟「C0棟 ピロティ」の命名権を取得しました。「C0棟 ピロティ」のリデザインと改修の完成を受け、2024年3月にネーミングライツ施設開設記念式典が行われました。

新しく生まれ変わった施設は、「コ」ベル「コ」建機と「ここにきてね」というメッセージを込めた「ココテラス」という名称に決定。この場所で多くの人の交流が生まれ、新たな学びや研究アイデアにつながるきっかけになることを期待しています。



「ココテラス」は広島大学大学院で学ぶ学生有志が、授業の一環でデザインの原案を作成

Wind 2 from
パリ
Paris

世界最大級の展示会「INTERMAT 2024」に出展しました

2024年4月24～27日の4日間、世界最大級の建機展の一つである「INTERMAT 2024」がフランス・パリにて開催され、コベルコ建機の欧州現地法人Kobelco Construction Machinery Europe B.V.(以下、KCME)が、コベルコ建機と共同で出展しました。

今回はKCMEの新たな欧州ブランドキャッチフレーズ「Built for Perfectionists」を掲げ、盆栽や桜など日本の伝統的な要素を採り入れたブースでお客様をお迎え。油圧ショベル、環境機、クレーンの合計15台を展示し、ブースには欧州各国をはじめ他地域から連日多くのお客様にご来訪いただきました。



ブースでは油圧ショベル、環境機、クレーンの合計15台を展示

Wind 3 from
コベルコ建機
KOBELCO

「K-D2 PLANNER®」が国内クレーン4社のモデルを標準搭載

2023年4月に一般販売を開始した、3D-CAD (Autodesk社製Revit®)のクレーン施工計画策定支援アドインソフト「K-D2 PLANNER®」に、コベルコ建機と株式会社タダノに加えて、新たに株式会社加藤製作所と住友重機械建機クレーン株式会社のクレーンを標準搭載しました。

「K-D2 PLANNER®」に標準搭載しているクレーンメーカーとモデル※2

コベルコ建機株式会社	クローラクレーン(50～500tクラス)
株式会社タダノ	ラフテレーンクレーン(13～100tクラス) オールテレーンクレーン(100～700tクラス)
株式会社加藤製作所	ラフテレーンクレーン(13～80tクラス) オールテレーンクレーン(110～400tクラス)
住友重機械建機クレーン株式会社	クローラクレーン(55～500tクラス)

※1 Autodesk社製の建築用3D-CADです。
※2 2024年2月2日時点で、株式会社タダノ、株式会社加藤製作所、住友重機械建機クレーン株式会社と当社がBIMデータとして公開しているモデルを標準搭載しています。今後公開されるBIMデータは随時対応していきます。



Wind 6 from
コベルコ建機
KOBELCO

「K-DIVE®」が日本建設機械施工大賞優秀賞を受賞

コベルコ建機は、「令和6年度 日本建設機械施工大賞」において、株式会社富島建設、鹿島建設株式会社とともに「大賞部門 優秀賞」を受賞しました。

受賞対象となったのは、奈良県五條市大塔町赤谷地区の土砂災害対策工事において3社で共同実施した、重機遠隔操作「K-DIVE®」の実用化検証です。今回、危険な現場におけるK-DIVE®での無人化施工を実証できたことで、現場のさらなる効率化、安全性の向上につながることを期待しています。



現場から約70km離れた富島建設社(大阪市)から遠隔操作で作業

Wind 7 from
愛知・千葉
Aichi・Chiba

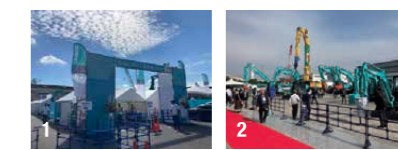
秋の展示会開催のお知らせ

「KOBELCO-EXPO 2024 in 中部」と、「コベルコ建機日本 秋の大展示会2024」の2つの展示会を開催します。両展示会ともに、最新鋭機の展示やデモンストレーションを予定。また、子どもから大人まで、来場いただいた皆様に楽しんでいただけるさまざまなブースも企画中です。ぜひ展示会にご来場ください!

KOBELCO-EXPO 2024 in 中部～想像の一步先へDIVE～
日程:2024年9月14日(土)・15日(日)
開催場所:愛知県東海市南柴田町ハノ割138-18

コベルコ建機日本 秋の大展示会2024～碧く染める!時代に挑むSPIRIT～
日程:2024年11月9日(土)・10日(日)
開催場所:コベルコ建機日本株式会社 市川本社 千葉県市川市二俣新町17

【ご来場について】本展示会は事前登録制です。詳しくは最寄りの営業所までお問い合わせください。



1. 「コベルコ秋の大感謝祭2022 in 中部」開催の様子 2. 「コベルコ建機日本 秋の大展示会2023」開催の様子

読者の広場

Fun! Fan! コベルコニュース

コベルコニュースへのご意見や、身のまわりで起こったあんなこと、こんなこと。さらに自慢のイラストやすてきな写真など、読者の皆様からのご投稿をご紹介します!

K-DIVE®、すごい!

重機の遠隔操作、しかも女性が担当されていることに驚きました。
宮崎県・(株) 福田工業
福田富士子さん



山口県 匿名希望

事務との兼業が カッコいい!

K-DIVE®が導入され、女性が現場に出なくても遠隔で操作でき、事務と兼業されていることにびっくり! 機会があれば体験してみたいです。
滋賀県 匿名希望



京都府・志摩機械 (株)
尾崎直央さん



熊本県・(株) 活誠
喜讀直友さん

今後の取り組みが楽しみ

DXとGXは世界的な課題。特にEV化に伴い充電時間や本体に負荷がかかるのかなど、バッテリー式の問題点が気になりました。これから先の地球環境を守るために、コベルコ建機の取り組みに期待しています。

千葉県・(株) 石井興業
石井典子さん



秋田県 匿名希望

事故が減ることは 作業員やその家族の 幸福につながる

重機と作業員の接触は発生してしまうと重篤な災害となります。ですので、人感センサー付きの重機などの発展が現場においてかなり期待され、注視されています。ぜひ今後も安全に対する研究、進化を遂げてもらい、私たちが喜ばせてください。
愛知県 匿名希望



香川県・(株) 松下土木
松下仁さん

K-DIVE®導入の 記事に感銘

山崎組様で活躍している井口さんがオペレータ業務と事務職を兼任されているという記事を読んで、同じ事務職としてワクワクしました!
岩手県 匿名希望

楽しいイラスト、すてきな写真大募集!

読者の広場は皆様からの投稿で構成しています。本誌への感想や、身近で起こったできごとなど、お気軽にお寄せください。また、同時にイラストやお写真も募集しています。採用された方には、すてきなプレゼントを進呈いたします。ぜひご投稿ください。メールでのご投稿もお待ちしております。

※メールには、会社名、所在地、電話番号、氏名、匿名希望の方はその旨を必ずご記入ください
※ご投稿いただいた内容は、本誌以外にHP、SNSなどに掲載させていただく場合があります。予めご了承ください
☑ Kobelconews-shm@kobelconet.com

公式アカウントで
投稿が紹介されるかも

#コベルコのある風景

#コベルコ建機 #コベルコ

Instagram

投稿募集中



鹿児島県 匿名希望

遠隔もやはり 実機でないとは……

昔ゲームセンターに、重機オペレータのゲームがありましたよね。そこそこ乗れるつもりでいるのに、やはり実機でないとな上手に操れない。ラジコンのバックホーもうまく遊べません……機会があればぜひK-DIVE®を体験してみたいです。

千葉県・(株) 水野建設
水野 義久さん



徳島県・高橋建機サービス
高橋志代美さん

PRESENT

[プレゼント]

クロスワードパズル正解者のなかから抽選で次の賞品を進呈いたします。ふるってご応募ください。

※当選者の発表は、賞品の発送をもって代させていただきます

A賞



3名様

SK350DLC (金属マテリアルハンドリング機リフティングマグネット仕様)

金属リサイクルなどの現場で活躍するリフティングマグネット仕様のSK350DLC。キャブは実機同様にエレベーター式で上下可能。アタッチメントは実際にマグネットを使用しており、クリップなどをくっつけば机上に現場を再現可能!

B賞



1名様

オーレックス (AUREX) ワイヤレスカセットプレーヤーAX-W10C

カセットテープの音をBluetooth®イヤホンなどで聴ける小型プレーヤー。ワイヤレスでカセットミュージックが楽しめます。最大16時間の再生が可能。外部入力端子 (AUX) から録音もできます。コンパクトな手のひらサイズ

C賞



3名様

四日市萬古焼 新・ひとしずく (大) / カラー: 焼締

萬古焼の窯元、藤総製陶所の日本酒やお茶をゆっくりと楽しむ注器です。とても注ぎやすく、茶殻のお手入れも簡単。特に日本酒の1合用の酒器としても、スタイリッシュにお酒の席を彩ります

CROSSWORD PUZZLE

[クロスワードパズル]

タテ・ヨコのカギをヒントにマス目を埋めてください。二重マス目の文字を並べ替えてできた言葉を専用はがきの解答欄 (または、はがき) にご記入ください。

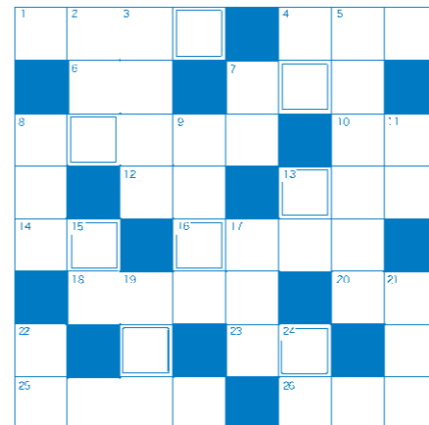
■ご応募の締め切り: 2024年10月4日 (金) (消印有効)
■あて先: 〒141-8626 東京都品川区北品川5-5-15 大崎プライトコア5F
コベルコ建機 (株) コベルコ建設機械ニュース編集室

[Web応募フォーム]
PC・スマートフォンからも
お気軽にご応募いただけます!



※ご記入いただいた個人情報、当選者へのプレゼントの発送と読者の広場ページへの掲載以外の目的では使用いたしません

https://www.kobelco-kenki.co.jp/inquiry/knews/index.php



ヒント: 「売って終わり」でなく、「売ったあとも」

答え:

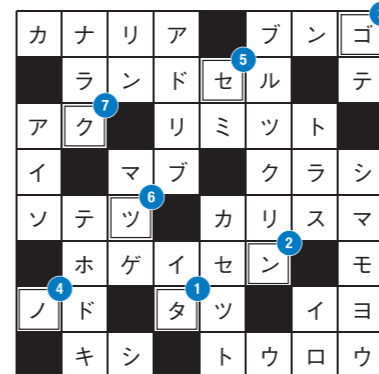
タテのカギ

- 一般の公道で行なわれる自動車の長距離競技
- 特定の物をほかの物と区別するマークや特徴
- 口や鼻以外に、ここで呼吸が行われている
- 日本橋から太平洋側を通り、京都の三条大橋に至る江戸時代の五街道の一つ
- マメ科のつる性多年草。根から取れるデンプンは和菓子の原料になる
- 伊勢湾に面し「七里の渡し」の渡船場として発展。「タテ5」の42番目の宿場町
- 手紙を書くための用紙
- ピアノ〇〇、〇〇キャンプ、〇〇ホームラン
- こし〇〇、甘酢〇〇、小倉〇〇
- 押し〇〇、手巻き〇〇、握り〇〇
- 敷地を仕切る囲いの一つ
- 料理やお菓子、お茶などに使われる香草や薬草
- アイスクリームの香料。実が鞘に入っているため「〇〇ビーンズ」と呼ばれる
- 山菜のアク抜きに使われる
- 思いがけず幸運に。「〇〇からばたもち」

ヨコのカギ

- 砂糖と水を煮詰めたもの。香ばしく、やや苦みが特徴
- 5本の腕をもった星型の海洋生物といえば
- 分譲マンションにおける管理組合の執行機関「〇〇会」
- よく考えて良い方法を出すこと。または、考えた良い方法のこと
- 2005年度から環境省が提唱している夏の環境対策。仕事でも涼しく快適に
- 著しく人口が減少し、地域社会の機能が低下していること
- トイレトーパー、どうもこし、シャープペンシル。共通するものは?
- 狭い通路、進行の難所
- 水〇〇、千両〇〇、賀茂〇〇、焼き〇〇
- 野球で「二塁手」のこと
- 3か月に一度、企業が公表する「〇〇〇〇決算」
- 乳幼児を乗せ、押して歩く四輪の「〇〇車」
- 「タテ15」でシャリは「酢飯」、具材は何?
- プレー人数に由来する「サッカーチーム」の別の言い方
- 木曾三川とは、木曾川、揖斐川、〇〇川

Vol.264 クロスワードパズル 正解発表



正解は「タンゴノセック」でした。多数のご応募ありがとうございます。

Wチャンスのお知らせ

Vol.263~265にお寄せいただいたすべてのがきを再抽選、50名様に記念品をプレゼントいたします。パズルへのご応募のほか、ご投稿、ご意見など、どうぞお気軽にお寄せください。

※当選者の発表は、賞品の発送をもって代させていただきます

編集後記

猛暑が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今号の「歴史的建造物誕生の秘密を探る!」では、夏の空に負けない、鮮やかな空色の洋館が目を引く「旧諸戸家住宅 (六華苑)」をご紹介しました。華やかな洋館と伝統的な和館の調和がとても魅力的ですね。ぜひ行ってみたい! けれども、もう少し暑さが和らいでから……いつまでこの暑さは続くのか……と思う今日この頃です。皆様のおススメの歴史的建造物はどこでしょうか? 誕生の秘密を探りにいきますので、ぜひ、はがきやメールで教えてください! (A.S)

コベルコ建設機械ニュース 夏季号 2024年8月 Vol.265
発行: コベルコニュース編集室
企画・編集: 日経BP / 日経BPコンサルティング/リミック